

令和6年度学校評価[教職員] 年間評価

○めざすべき学校像

<b>教育方針</b> (School Policy)	<p>(1) 育成をめざす資質・能力に関する方針&lt;Graduation Policy&gt;</p> <p>①自己を見つめ、自己の存在感を実感しながら、主体的に学びを深める生徒を育成します。</p> <p>②社会体験や交流を通して奉仕と感謝の心を育て、豊かな人間関係を育むコミュニケーション力や他者とのつながりを尊重する態度を養います。</p> <p>③知識・技能の習得や表現活動を通して新たな事故を発見し、自らの可能性と社会的役割を自覚して、未来社会を自律的に生きようとする意欲を育みます。</p>
	<p>(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針&lt;Curriculum Policy&gt;</p> <p>①生徒が安全に安心して学べる教育環境を整備し、個々の能力や特性、一人ひとりのペースに応じた学習支援の充実に努めます。</p> <p>②丁寧なレポート添削により、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できるようにします。また、分かる喜びを重ねることで自信につなげ、自学自習の習慣を身に付けるよう支援します。</p> <p>③進路学習や選択授業を通して可能性を発見し、社会における自分の役割を考え、自らの意志で進路を決定することができるよう支援します。</p> <p>④学習支援のツールとしてICTを効果的に活用し、主体的に学びを深める教育環境を整えます。放送視聴に加え、情報端末や動画配信等を活用して、自律的に学ぶ態度を養います。</p> <p>⑤社会の一員としてのより良い生き方、豊かな人間関係の形成、自己理解、この観点から様々な行事や講話を計画し、生徒の積極的な参加を促します。</p> <p>⑥社会体験やボランティア体験に積極的に取り組むことを通して自主性・協調性・責任感を育成し、協働して活動する体験を通して良さを認め合い支え合う、寛容でしなやかな心を育みます。</p>
	<p>(3) 入学者受け入れに関する方針&lt;Admission Policy&gt;</p> <p>①「自ら学ぶ」意欲のある生徒 通信制家庭は自学自習が基本です。分からないから、できないからとあきらめることなく、分かるようになりたいという意欲をもって自主的に学習に取り組むことが大切です。分からないことを分からないと言える、あきらめずにやってみようという気持ちで行動できる生徒を待っています。</p> <p>②失敗を恐れずチャレンジしようとする生徒 学びたいと思ったときが挑戦のチャンスです。なぜ、どうして、何のためにという学びへの好奇心をもって、自分の可能性を信じてチャレンジしようとする生徒を待っています。</p> <p>③自他を大切にする生徒 学校は誰もが安心して過ごせる場所です。ありのままの自分を受容して、互いを認め合い、他者を共感的に受け入れ、進んで関わろうとする生徒を待っています。</p>

評価(4段階) 4:十分に達成できている 3:おおむね達成できている  
2:どちらかという達成できていない 1:ほとんど達成できていない

○重点目標	評 価	考 察
(1) 一人一人の進路に応じた、多様な可能性の伸長と進路の実現	3.1	本年度からクロームブックの導入により(3)の評価が2.6から3.0に上昇した。次年度は内容の充実も図る。
(2) 生徒の思いに寄り添い、自己実現を図るための教育相談の推進	3.4	
(3) ICTを効果的に活用して、自律的に学習を進める能力の育成	3.0	

○各分掌

教務部	評 価	考 察
個々の生徒の履修状況、学習状況を把握し、適正な成績処理・管理を行う	3.0	各分掌ごとの平均は3.2～3.4で昨年と変わらないが、平均の2.5を超えておりおおむね良好と言える。各項目で前年度から大きく数値が変わったのは、教務部の「ICTの効果的な利活用」で2.7から3.2と0.5ポイントも上昇した。逆に下がったのが、生徒指導部の「教育相談部・学年部との連携」が3.5から3.0となった。ただ「おおむね達成できている」の3.0は達成できている。もう一つは、教育相談部の「ユニバーサルデザインの授業実施」が3.1から2.8と下がった。様々な生徒がいてクラスの生徒数も増えている中で、一律に誰にでもわかりやすい授業を実施することは困難であり、次年度は授業の在り方に関する研究協議が必要であると思う。全体的には高評価であるものの、次年度はさらに高得点となるように工夫していかなくてはならない。
学校行事や特別活動を計画的に実施し、目標の達成度を適切に評価する	3.1	
ICTの効果的な利活用を模索し教育活動に利用できるようにする	3.2	
生徒・保護者・教員の転編入相談や個人相談に丁寧に対応し、適切に処理する	3.7	
	3.3	
進路指導部	評 価	
各学年に応じた進路情報を提供し、早期に目標設定ができるよう指導を行う	3.2	
3年生は早期に面談を実施し、三者面談までには具体的な進路希望を決定させる	3.3	
進路決定に向けての準備（小論文・面接・履歴書など）を計画的に進める	3.1	
在宅生・サポート校生の進路指導について、指導の機会を創出し、進路保障の充実を図る	3.0	
	3.2	
生徒指導部	評 価	
挨拶、言葉遣い、時間の遵守など基本的なマナーを身につけた生徒を育てる	2.9	
生徒会活動等を通して、目的意識をもって主体的に活動する生徒を育てる	3.3	
諸活動での生徒の安全に留意し、生徒が安心して活動できる環境をつくる	3.4	
教育相談部・学年部との連携を図り、組織的な支援を行う	3.0	
	3.2	
教育相談部	評 価	
学年との連携を密に行い、生徒の変化についての早期発見・対応を行う	3.2	
SC、SSWとの情報共有を密にして、個別の支援計画による適切な支援を行う	3.5	
ユニバーサルデザインの授業実施と諸活動を取り入れ、その効果を次につなげる	2.8	
教育・医療・福祉等関係機関との連携を密にして、きめ細やかな指導を行う	3.5	
	3.3	
未来教育推進室	評 価	
未来教育推進室の活動を通じ、こころ未来高等学校の教育の充実・発展に寄与する	3.3	
新規に連携校の開拓を行うとともに、夢未来高等学院への的確な連携・支援を行う	3.5	
動画配信等の工夫改善や通信教育連携協力施設での面接指導の充実に努める	3.2	
メディア（SNS等含む）・ホームページ等を活用した広報活動を充実する	3.6	
	3.4	
教育環境	評 価	
生徒・来校者が快適に過ごせるよう、教職員自らが気持ちよい挨拶を心がける	3.4	
施設・設備の安全点検や補修を定期的に行い、教育環境の保全に努める	3.3	
校内巡視による清掃状況、掲示物点検を徹底し、環境美化に努める	3.2	

○各学年

1 学年		評 価	考 察
①礼儀の習得：挨拶・ <u>言葉遣い</u> ・時間厳守など基本的マナーを身につけさせる		3.2	全学年とも平均点は3.0以上を達成できた。特に、1学年は3.0から3.3と上昇した。学年団全員での協力体制により効果が上がったものと考えます。各項目で3.0を下回ったのは、2学年での「雰囲気の良いクラス」2.8と、3学年の「授業態度の醸成」が2.9と2項目だけであった。学年の平均は3.1と高評価は維持しており、次年度は新たに導入する「チーム担任制」によりさらに教育効果を向上させていきたい。
②基礎学力の向上：振り返り学習を行い、基礎学力の向上を図る		3.4	
③保護者との連携：保護者との情報共有・連携により心身ともに安定した学校生活を送らせる		3.3	
④携帯電話の適切使用：SNS等の活用について指導を徹底し、トラブルの防止と安全確保に努める		3.3	
⑤計画的な学習：指示を適切に行い、レポートや報告書は期限を守って提出できるようにする		3.2	
		3.3	
2 学年		評 価	
①雰囲気が良いクラス：生徒個人の特性や友人関係を把握し、過ごしやすいクラスづくりに努める		2.8	
②各人の目標設定：一人一人の状態を把握し、目標をもって学校生活を送らせる。		3.0	
③教室内の環境整備：ユニバーサルデザインに配慮した教室の整理整頓に努める		3.0	
④進路意識の喚起・醸成：3年生での進路決定に向けて、自己理解を深めさせる		3.0	
⑤相談部との連携：情報の共有に努め、生徒が安心して計画的に学習を進められるよう支援する		3.2	
		3.0	
3 学年		評 価	
①3学年としての意識付け：最高学年としての自覚をもち、模範となるような意識・態度を養う		3.0	
②授業態度の醸成：授業前の教材準備等、 <u>自ら</u> 落ち着いて取り組む授業態度を養う		2.9	
③積極的な態度の育成：学校行事・清掃活動等に責任を持たせ、積極的に取り組む態度を養う		3.2	
④進路選択：自分を見つめ、適正に把握し、主体的に進路選択ができるようにする		3.2	
⑤進路決定：三者面談や進路情報提供等の効果的実施により、進路決定率を向上させる		3.2	

3.1

学年平均 3.1 [3.1]

総平均 3.2 [3.2]